

言語類型論の記述的・理論的研究

研究代表者 高 田 晴 夫

1. プロジェクトメンバー（平成25年9月現在）

高 田 晴 夫（代表者）

福 田 一 雄

三 井 正 孝

藤 石 貴 代

秋 孝 道

土 橋 善 仁

駒 形 千 夏

中 村 隆 志

成 田 圭 市（協力者・教育学部）

本 間 伸 輔（協力者・教育学部）

朱 継 征（協力者・経済学部）

大 竹 芳 夫（協力者・経済学部）

池 田 英 喜（協力者・国際センター）

2. プロジェクトの概略（2012年4月1日～2013年3月31日）

言語類型に関わる基礎研究について、研究会等で、議論・検討を行った。以下はその概略である。

3. プロジェクトの成果

1. 平成24年5月11日（金）

新潟大学言語研究会・人文学部プロジェクト「言語類型の記述的・理論的研究」・現社研プロジェクト「言語の普遍性と個別性」, 新潟大学コアステーション言語科学研究センター共催（以下同様）

1. 発表者：苅部恒徳
 題目：英語固有名詞・姓名の由来を訪ねて
 2. 発表者：ハドリー・浩美
 題目：ワーキングメモリに配慮した英語論説文の読解力育成の試み
2. 平成24年7月13日（金）
1. 発表者：許家瑜（南台科技大学大学院修士課程2年生・新潟大学大学院現代社会文化研究科特別聴講生）
 題目：台湾人日本語学習者の外来語習得における表記の誤用について — 長音, 促音を中心に —
 2. 発表者：ジョージ・オニール（新潟大学教育・学生支援機構教育支援センター准教授）
 題目：ニューヨークタイムズ社説における前置と後置の副詞節
 (Proposed & Postposed Adverbial clauses in New York Times Editorials)
 3. 発表者：朱美英（新潟大学大学院現代社会文化研究科博士前期課程2年生）
 題目：同命題に関する“了1”と“了2”の使い分けについて
3. 平成24年10月17日（水）
1. 発表者：武久智一（新潟薬科大学講師）
 題目：A Pragmatic Approach to Unaccusative-based Indirect Passives in Japanese（非対格動詞を語基とする日本語間接受動文に対する語用論的近接法）
 2. 発表者：ジョージ・オニール（新潟大学教育・学生支援機構教育支援センター准教授）
 題目：ノンネイティブ間の英語の会話における分かりやすい発音
 (私のジェニファー・ジェンキンズ理論への改宗) “Intelligible Pronunciation in Nonnative-Nonnative English Speakers”

Conversations (My Conversion to Jennifer Jenkins's Theories)”

3. 発表者：戸出朋子（新潟医療福祉大学准教授）

題目：日本語を母語とする英語学習者の主語習得研究への展望
— 事態認知と頻度効果の視点から —

4. 平成24年12月19日（水）

1. 発表者：渡辺真吾（新潟大学現代社会文化研究科博士前期課程）

題目：“because”にみる母語干渉 — 日本人英語学習者による英作文
の誤用分析を通して —

2. 発表者：木島愛（フランシュ・コンテ大学博士課程）

題目：フランス語の知覚構文について

5. 平成25年3月15日（金）

1. 発表者：ジョージ・オニール（新潟大学教育・学生支援機構教育支援
センター准教授）

題目：ノンネイティブ間の Intelligible な英語の発音：/r/&/l/ 音素

2. 発表者：田中敦（新潟大学大学院現代社会文化研究科博士後期課程2年）

題目：視覚テキストの認知における、参照点構造によるドメイン設定

3. 発表者：岡田 祥平（新潟大学教育学部准教授）

題目：「とびはね音調」（首都圏の若年層を中心に観察される「新しい」音調）・再考

4. 講演会の開催

1. 言語学研究会

主催：新潟大学人文社会・教育科学系学系研究支援経費（学系基幹研究）
による研究プロジェクト「節両縁部に現れる話題表現と焦点表現に
関する実証的・理論的研究」（代表 秋孝道）
科学研究費補助金基盤研究（C）による研究プロジェクト「英語焦
点構文の非焦点的分析」（代表 秋孝道）

共催：新潟大学人文社会・教育科学系附置 言語科学研究センター
(代表 高田晴夫)
新潟大学人文学部プロジェクト「言語類型の記述的・理論的研究」
(代表 福田一雄)

日時：平成24年12月21日（金）午後2：00～

会場：新潟大学 総合教育研究棟D棟 D301室

発表：同族目的語構文にみられる修飾の多様性について
(高知県立大学 金澤俊吾 先生)
ドコロカについての一考察
(聖徳大学 佐藤直人 先生)
数量詞句の構造と作用域について
(新潟大学 本間伸輔 先生)

討論：学習院大学 中島平三 先生
東北大学 菊地朗 先生

2. 人文学部言語学講演会

主催：新潟大学人文学部

共催：新潟大学人文学部プロジェクト「言語類型の記述的・理論的研究」
(代表 福田一雄)
新潟大学人文社会・教育科学系附置 言語科学研究センター
(代表 高田晴夫)
新潟大学人文社会・教育科学系学系研究支援経費（学系基幹研究）
による研究プロジェクト「節両縁部に現れる話題表現と焦点表現に
関する実証的・理論的研究」（代表 秋孝道）
科学研究費補助金基盤研究（C）による研究プロジェクト「英語焦
点構文の非焦点的分析」（代表 秋孝道）

日時：平成25年3月8日（水）13：00～

会場：総合教育研究棟D棟3階 D301室

講演：東京大学准教授 田中伸一 先生

題目：日本語有声音をめぐる3つの謎を解く

3. 新潟大学人文学部言語学研究会

日時：平成25年3月27日（水）13：00～

会場：総合教育研究棟D棟D301室

発表：13：00～14：00

「ドイツ語与格の統語論と意味論」

（東京外国語大学藤縄康弘先生）

発表：14：15～14：45

「ドイツ語移動動詞における項の増減 — 統語的使役構文か？与格構文か？—」

（東京外国語大学大学院博士後期課程3年高橋美穂氏）

コメンテーター：愛媛大学今泉志奈子先生

5. 2012年4月1日～2013年3月末までの研究成果一覧

中村隆志

1. 著書（共著）『人文学の現在』愛媛大学法文学部，新潟大学人文学部（共同編纂），創風社出版. pp. 49-68（2012年4月）
2. 口頭発表「「ときめき」の波」社会情報学会（SSI）学会大会ワークショップ「恋愛ドラマ等に見るケータイのメディア表象」（2012年10月）
3. 口頭発表「恋愛ドラマにおけるケータイ表象の歴史と非言語コミュニケーション理論」第4回モバイルコミュニケーション研究会（情報通信学会内研究会）（2012年10月）

土橋善仁

1. 口頭発表「Prosodic Hierarchy, Autonomy of Prosody, and Efficient Computation」, Seventh North American Phonology Conference (NAPhC 7), The Linguistics Program at Concordia University, Concordia University, Montreal（2012年5月）

2. ポスター発表「Prosodic Phrasing and That-Trace Effects at the Syntax-Prosody Interface」, with Yosuke Sato, GLOW in Asia IX, Mie University (2012年9月)

高田晴夫

1. 著書(共著)『Language Communication in a Multicultural Context』 North-Eastern Federal University, Buma Publishing Co. pp.13-27 (2013年1月)
2. 著書(共著)『フランス語をとらえる — フランス語学の諸問題IV —』東京外国語大学グループ《セメイオン》, 三修社 pp. 200-213 (2013年1月)

新たな「公共圏」モデルの構築

研究代表者 渡 邊 登

- 1) 研究プロジェクト名 新たな「公共圏」モデルの構築
- 2) 代表者名 渡邊 登
- 3) 分担者名(人文学部の教員)
佐藤 康行
原田 健一
中村 潔
松井 克浩
古賀 豊
杉原名穂子